

平成24年度後期 授業改善アンケート 質問項目

	no.	設 問	① ←→ ⑤
学 生	1	シラバスで授業内容を確認しましたか	確認しなかった ～ 十分確認した
	2	教室では授業に積極的に取り組みましたか	取り組まなかった ～ 取り組んだ
	3	あなたの出席状況を評価してください	良くない ～ 良好
	4	授業外で学習(レポートや課題を含む)をしましたか	しなかった ～ 十分した
授 業 内 容 教 え 方 等	5	授業はシラバスに沿って行われましたか	シラバスと異なる ～ シラバスに沿っていた
	6	授業内容を理解できましたか	理解できなかった ～ 十分理解できた
	7	説明が明快でしたか	分かりにくい ～ 明快
	8	話は良く聞き取れましたか	聞き取りにくい ～ 聞き取れた
	9	板書、OHP・PowerPoint等は授業を理解する上で効果的でしたか	改善して欲しい ～ 効果的
	10	配布資料、教材等が効果的でしたか	改善して欲しい ～ 効果的
環 境 ・ 設 備 等	11	学習環境(人数、部屋の広さ等)は良好でしたか	良好でない ～ 良好
	12	参考書等が図書館に揃っていますか	不足 ～ 揃っている

1. 概評

すべての項目について全学平均を上回っており、総体的には良好な結果と言える。

わずか0.1ではあるが、no4(授業外での学習)、no12(参考図書)が向上したのは、喜ばしいことである。

一方で、no6(授業内容の理解)、no7(説明の明快さ)、no8(話の聞き取りやすさ)については、前期学科平均を下回る、もしくは同値ながら4≤のパーセンテージが減るといった、やや下降傾向にある。日文では多くの科目の通年履修を義務づけており、当然後期は内容の難度が上がったための結果と見られるが、学生の学力の二極化も絡み、照準の合わせ方が難しくなっていることも関係していると考えられる。

no4およびno.12の結果からは、高い学習意欲がうかがえるので、予習・復習の課題を出す等、工夫を凝らすことにより、理解度を上げることができそうである。

学科内平均を下回る科目の中には必修科目も含まれている。毎年変化する学生の質にも目配りし、対策を講じていただくよう、進言する。

(上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。)

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5≤ <3	3≤ <3.5	3.5≤ <4	4≤	評価と対策
1	4.2	0	0	0	0	28	87	[学生] 学科平均は、良好な数値を維持している。 その中でも、概評でも触れたように、no4(授業外での学習)が向上した。これについて細目に留意すると、<3.5の科目が前期同様、3科目しかない。多くの学生が学習意欲を持ち、授業外でも学習をしていること、すなわち単位の実質化がきちんと果たしていることがうかがえる。
2	4.2	0	0	0	0	32	83	
3	4.4	0	0	1	0	3	111	
4	4.2	0	0	0	3	26	86	
5	4.2	0	0	0	3	16	96	[授業[内容]] 概評でも触れたが、no6(授業内容の理解)が昨年同期、今年度前期より0.1下降した。しかしながら、71パーセントの科目が4≤であり、これは実に今年度前期より4パーセント上昇している。その反面、<3.5の科目のパーセンテージも増加しているため、平均値を下げたものと見られる。学生の学力の二極化への対策が必要である。
6	4.1	0	0	0	5	28	82	
7	4.3	0	0	0	8	17	90	[授業[教え方等]] no8(話の聞き取りやすさ)が今年度前期より、0.1下降している。細目を見ると、4≤の科目パーセンテージがやや下がり、全体的に下位評価に移行したさまがうかがえる。 no9(板書・視聴覚資料)、no10(配布資料・教材)も下位評価にやや移行しているため、それらとの相関関係を確認する必要がある。
8	4.3	0	0	1	4	18	92	
9	4.2	0	0	0	9	29	75	
10	4.3	0	0	0	6	22	87	
11	4.3	0	0	0	1	19	95	[環境・設備等] 概評にも記したが、no12(参考図書)が向上した。授業内での紹介、学生たちの授業外学習によって図書の必要性が認知されつつあると考えられる。いっそうの指導をはかっていく。 no11(学習環境)については、受講生の多い科目に不満が多いようである。可能な限り、時間割策定時に科内で調整できるところは調整していく。
12	4.1	0	0	0	2	46	67	

3. 今後の方針

- 今回、向上の見られた「授業外の学習」については、単位の実質化を担保するためにもより徹底して指導していく。それと並行して、課題を与えなくても自ら学習する学生の育成を期して、シラバスの【準備学習】の具体的記載を推進していく。
- 本学科は高い数値を維持しているが、各授業のレベル設定が適切であるか、検証も必要である。学生の質の変化も絡めつつ、教員間での情報交換を積極的に行いたい。

1. 概評

学科平均が全体平均より上回っているものが、12 項目中 10 項目（No.1, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12）、同じ数値が 2 項目（No.2, 3）であった。各項目の数値も、以前と比較すると上昇してきているので、全体的に見ると今学期の評価は大変良い結果であったと言える。今回の結果に引き続き、今後も学生のニーズや期待値を確認しつつ、教員間での話し合いを進め、より良い授業展開を目指していきたい。

【学生】4 項目中 2 項目が、全体平均より上回っており、2 項目が同じ数値であった。ここ数回と比べると大変上昇している様子が見られた。

【授業（内容）】2 項目とも、全体平均より上回っており、概ね良好と考えられる。

【授業（教え方）】4 項目とも、全体平均より上回っており、こちらも概ね良好と考えられる。

【環境・整備等】2 項目とも、全体平均より上回っており、継続して比較的ポイントが低かった参考図書に関する設問（No.12）も 4 ポイントを超える結果となって、改善が見られてきた。

（上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	4.0	0	0	4	10	39	74	【学生】 4 項目 3 項目（No.1, 3, 4）は、前年度より高い数値となっている。そして、残りの No.2 は、同じ数値であった。前回は、No.2（学生の積極性に関する質問）の上昇が高かったため、今回は比較的高い数値は出ているが、上昇が見られなかったのではと思われる。今後も継続して、学生の積極的な参加を促していきたい。
2	4.1	0	0	0	2	31	94	
3	4.3	0	0	0	1	14	112	
4	4.2	0	0	0	1	27	99	
5	4.3	0	1	0	3	16	107	【授業〔内容〕】 2 項目とも前年度より 0.2 ポイントずつ高い評価となっている。大変良好な結果と言える。より詳細で分かりやすいシラバスや、授業内での説明を通して、学生の理解を深めていきたい。
6	4.2	0	2	0	2	16	107	
7	4.3	1	1	0	5	18	102	【授業〔教え方等〕】 4 項目全て 4 ポイント以上となり、昨年度と比較すると 0.1 から 0.2 ポイント上昇している結果となった。大変満足できる結果であった。但し、説明の明快さに関する設問（No.7）や話の明瞭さに関する設問（No.8）に関して、2.5 ポイント以下の項目にも回答が見られる。これらの科目を無くすためにも、FD 活動等を通して学科内で積極的に検討していきたい。
8	4.3	1	1	0	4	16	105	
9	4.2	0	2	0	6	22	97	
10	4.2	0	2	0	6	19	100	
11	4.4	0	0	1	0	14	112	【環境・設備等】 2 項目とも、4 ポイントを超える、大変良い結果となっている。どちらの項目とも、大変大きな伸びが見られ、大変満足できる結果であった。
12	4.1	0	0	2	3	40	82	

3. 今後の方針

・全体的に見ると、前年度に比べるとポイントが上がった項目が12項目中11項目(No.1,3,4,5,6,7,8,9,10,11)、残りの1項目(No.2)が前年度と同ポイントであった。また、今学期の全体平均と比較しても、2項目のみ(No.2,3)が平均と同じであったという点を考慮しても、今学期の学生からの授業評価は非常に良い結果であったと言える。

今回の状況を考えて、学生の授業への取り組みに関する設問(No.2)の原因を検証し、改善に取り組み、全体的な評価を向上させていきたい。

・平均が3ポイント台の項目が無くなったことも、大変満足できる結果と言える。今後も教務部委員、クラスアドバイザー、そして各授業担当教員からの指導を通して、学生のより正確な理解をもたらす授業を展開していきたい。また、より良い授業環境の整備にも取り組んでいきたい。

1. 概評

後期開設科目のうち、76科目（複数教員担当授業は1科目とする）でアンケートを実施した。学科平均と全体平均を比較すると、全体平均を上回る項目が1（No.3）、全体平均と同じである項目が6（No.1、No.6、No.7、No.8、No.9、No.10）、やや下回る項目が5（No.2、No.4、No.5、No.11、No.12）であった。この結果、学生の授業への出席率は良く、また授業もほぼ問題なく実施されている。しかし、前年度後期と比べると、4項目（No.2、No.3、No.9、No.10）でポイントを1つ下げており、上回ったのは1項目（No.12）のみであった。

（上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.9	0	1	0	5	27	43	[学生] 本学科の学生は、No.3 にみられるように出席率はよく、全体平均を上回っている。毎回このような結果になっており、まじめな学生が多い。しかし、No.2 や No.4 にみられるように、授業への積極性や授業外での学習に弱い面がある。 この対策として、1 年生必修の歴史文化基礎で全員に課題をだし、自主的な研究をするように指導しており、これを継続したい。また、2 年生以上の学生に対しては、授業で課題をだし、授業外での学習を進めるように、指導したい。
2	4.0	0	0	0	3	26	47	
3	4.4	0	0	0	1	4	71	
4	3.9	0	0	0	5	31	40	
5	4.0	0	0	0	3	27	46	[授業[内容]] No.5 は全体平均より低く、No.6 は全体平均と同じである。とくに、No.5 に関して、シラバスに沿った授業がうまく展開されていない傾向がみられ、改善を促したい。
6	4.0	0	0	0	3	26	47	
7	4.1	0	0	0	3	23	50	[授業[教え方等]] No.7～No.10 まで全体平均と同じであった。前年度後期と比べると No.10 で1 ポイント下がった。とくに、No.8 でポイントが低い授業があり、担当者に改善を促したい。
8	4.2	0	0	1	1	20	54	
9	4.0	0	0	0	6	25	44	
10	4.1	0	0	0	1	25	50	
11	4.1	0	0	0	4	13	59	[環境・設備等] 全体平均より、ともに1ポイント低かった。学習環境と図書の問題である。講義形式の授業にふさわしくない実習形式の教室で授業している科目に評価が低い。また、図書に関しては、学生に図書館に購入希望をだすように指導したい。
12	3.8	0	0	1	6	49	20	

3. 今後の方針

本学科の学生は、授業をまじめに取り組むが授業外の学習について弱い傾向がみられる。このことについては、毎回指摘してきた。そのため、下記のような指導を継続している。

- ①1年生の必修授業(『歴文基礎』)で取り組むそれぞれのテーマについて、自分で野外調査し、その調べたことを整理し、授業で報告する、というスタイルを徹底し、自主的・主体的な学習と学ぶ姿勢を養っていく。
- ②2年生以上では、必修授業での課題の徹底、ゼミでの夏休み研修旅行、昭和女子大学文化史学会への参加などから、自主的・主体的な学習と学ぶ姿勢を養いたい。

ほかに、今回の結果をふまえ、

- ①シラバスに沿った授業展開をするように各教員に働きかけたい。
- ②必修授業など、大人数の授業で授業公開をして、よりよい授業をめざしたい。

1. 概評

全般的に学科平均が全体平均よりも高い項目は No. 4「授業外での学習」と No. 9「板書等は授業を理解するうえで効果的であったか」の2項目であった。それ以外は、学科平均が全体平均と同じで会った。授業外での学習としては、e-learning を積極的に取り入れたこともポイント上昇の一つと考えられる。

同じ科目が開講されている前年度後期と比較すると、7項目が 0.1 ポイントアップしていた。まず、昨年度問題として指摘したのは、出席状況の評価が低かった点である。1 年生の場合、英語に加えアジア言語・ヨーロッパ言語の履修がはじまり、週 8 時間の学習で疲弊したものと考えた。そこで、24 年度は後期オリエンテーションの際に、適切な履修計画とアルバイトなどの自粛を呼びかけた結果、出席状況は改善しつつあるようである。きめの細かい指導が必要であると考えられる。

（上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.9	0	0	7	22	60	70	[学生] No.1/No.2/No.3/No.4 は昨年度の後期と比較してすべて 0.1 ポイント上昇した。シラバスについては、必修科目では、担当教員から呼びかけをお願いした。学生にはシラバス予習をする際の目安にするように指導した。No.4 については、アンケート実施の際、授業で課されるレポートなども含まれることを担当者に伝えてもらった効果があったようである。
2	4.1	0	0	0	2	60	97	
3	4.3	0	0	0	0	17	142	
4	4.1	0	0	0	4	53	102	
5	4.1	0	0	0	6	52	101	[授業[内容]] No.5 は昨年よりも 0.1 ポイント上昇。No.6 は同点である。授業がシラバスと異なることがないよう教員間の協力体制が重要であることを実感した。授業の理解度については、必修科目で困難を感じている学生が多いようだ。講義科目については、学生の基礎知識不足にも問題があるとの指摘があった。学生のレベルに授業内容を下げるのではなく、基礎力の底上げを図って、授業を充実させるように改善したい。
6	4.0	0	0	0	11	53	95	
7	4.1	0	0	0	8	49	102	[授業[教え方等]] No.7～No.10 まで昨年度と同じポイントであった。演習形式の授業と講義形式の授業では聞きとりやすさに差がでていようである。歴史の知識不足、社会情勢について関心がない学生にとって専門科目の講義をうけても不明快との評価となってしまう。基礎ゼミ等で、より基本的な学力の補強が必要である。
8	4.2	0	0	0	4	42	113	
9	4.1	0	0	0	6	53	100	
10	4.1	0	0	0	8	50	101	
11	4.2	0	0	0	1	40	118	[環境・設備等] 100 人を超える授業については、今後工夫が必要であると感じた。
12	3.9	0	0	2	17	78	62	

3. 今後の方針

1. シラバスを確認していない学生が、一般教養科目が履修できなくて、同じ時間帯の他学科開講科目に来る学生に多くみられるとの指摘があった。シラバスを確認する余裕すらなく、教室に来て許可をもとめる。今後は、同じ時間帯で開講されている複数科目のシラバスをチェックして、優先順位をつけて履修計画するように指導することが必要あるようだ。

2. 語学授業の場合、シラバスには小テスト、中間テストの日程、Book Report の締め切りなどが記載されている。授業当初は理解しているようであるが、しばらくすると忘れてしまい、テストの準備をしていない学生が多くいたと担当教員から指摘があった。シラバスは単なるスケジュールではないということを、学生にしっかりと理解させるようにしたい。

1. 概評

いずれの設問においても、大学全体の平均と比較するとほぼ同じ評価点であるが、本学科の前年度同学期の評価点と比較すると12項目中、1項目（出席状況）のみが同点であり、それ以外の11項目はすべて向上していた。学生の学習態度、教員の授業運営双方に改善を認めることができた。引き続き、学生への働きかけを意識しつつ、授業の改善に取り組んでいきたい。

（上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	4.0	0	0	0	2	15	27	[学生] No.3(出席状況)以外の3設問は昨年度の評価点を上回っている。No.3についても4.4点と高得点であり、学生の授業に向かう積極的な態度がうかがえる。今後も学生が授業内容を事前に確認し主体的に学習に臨むことを促していきたい。特に授業外での学習を学生が意識化できるように各教員で働きかけていきたい。
2	4.0	0	0	0	1	15	28	
3	4.4	0	0	0	0	0	44	
4	3.9	0	0	0	4	20	20	
5	4.0	0	0	0	0	17	27	[授業[内容]] 2設問とも昨年度の評価点を上回った。今後もシラバスの内容について学生と共有した上で、学生の理解を促す授業運営を心掛けていきたい。
6	3.9	0	1	0	2	19	22	
7	4.0	0	1	0	1	15	27	[授業[教え方等]] 4設問とも昨年度の評価点を上回った。すべての設問が4点以上であり、授業運営に対する各教員の創意工夫と努力の反映と考えられる。今後も引き続き授業方法の改善と向上を目指して精進していきたい。
8	4.1	0	0	1	0	11	32	
9	4.0	0	1	0	4	13	26	
10	4.1	0	0	1	0	14	29	
11	4.1	0	0	0	3	14	27	[環境・設備等] 2設問と昨年度の評価点を上回った。No.12(図書館の蔵書)は、12設問中一番低い値であった。今後も教員が参考書籍の購入を積極的に図るとともに、授業内でも学生に広報することで、図書館の活用を促していきたい。
12	3.8	0	0	0	6	26	12	

3. 今後の方針

- ほとんどの設問が4点以上であり、学生の授業に向かう姿勢、教員の授業運営双方ともに良好といえる。授業内容や教え方などに関しては、今後も授業公開などの機会を通して教員間の情報交換を密にし、一層授業の質の向上を目指していきたい。
- 図書館の蔵書に関しては、各教員が担当授業科目における参考書籍の購入依頼を積極的に行うとともに、学生への指導、広報を行い、学生が図書館をより活用するように促していきたい。

1. 概評

前年度と同様、授業に対する積極性、出席状況、授業外の学習の状況は良好である。教授法についても、話の聞き取りやすさや配布資料・教材などの項目は前年度と同程度の評価を得ている。0.1 ポイントではあるが、今年度改善された項目は、授業の理解のしやすさ(問6)、説明の明快性(問7)、板書・パワーポイントの効果的活用(問9)および教室環境(問11)である。ただし、個別にみると、これらの項目の評価が2点台の授業もあり、改善の余地がある。

図書館の資料の充実について、個別にみてみると、保育士・社会福祉士・精神保健福祉士関係の科目および教職科目の評価が低めであった。学科を挙げて図書の整備に努めるとともに、学生に図書館を活用させる方策を合わせて考える必要がある。

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいっところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。)

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.7	0	0	1	12	53	10	[学生] 問1(シラバスの事前確認)が低い評価点のまま固定化しつつある。資格関連科目がカリキュラムに占める割合が高く、これらの科目の内容は標準テキストに準じているため、内容の確認がおざなりになる傾向があるのかもしれない。 問2(授業に対する積極性)、問3(出席状況)、問4(授業外の学習状況)など、学生の学習に臨む姿勢は良好である。 ただし、問4については、科目によって評価にばらつきがある。 受講生が多人数の講義形式の授業で、学科平均および全体平均より低い傾向がみられるため、改善を促していきたい。 また、前年度課題となっていた国家試験対策講座であるが、講義時間外の自己学習を促してきたにもかかわらず、平均すると評価は3.5とやや低めである。引き続き、資格対策教員を中心に国家試験へモチベーションを高め、主体的な学習ができるよう学生を支援していきたい。
2	4.0	0	0	0	1	31	44	
3	4.3	0	0	0	0	4	72	
4	4.0	0	0	0	4	33	39	
5	3.9	0	0	1	2	38	35	[授業[内容]] 問5(シラバスと授業の一致) 現場実習の科目で2点台があるが、それ以外はおおむね良好である。現場実習は、実習受け入れ先(利用者の状況も含む)との調整が難しい部分もあり、予定通りにいかないこともあるため、やむを得ないと考えている。問6(授業内容の理解)は、前年度よりも0.1ポイント高い評価が得られている。授業担当者の努力を評価したい。
6	4.0	0	0	0	4	29	43	
7	4.1	0	0	1	2	26	47	[授業[教え方等]] 問7(説明の明快性)および問9(板書・パワーポイントなどの効果的な活用)は、昨年度よりも評価をあげており、授業担当者の努力が窺える。特に問9は、問11の教室環境の改善とのかかわりもあるのではないかと(具体的には、多人数の履修者の授業を、やや広めでスクリーンの見やすい視聴覚教室に変更した、など)と考える。 問8(話の聞き取りやすさ)および問9(教材・配布資料)については、前年度なみの評価であった。同一科目でシラバスを統一してあっても担当する教員によって評価にバラツキがあるもの(相談援助実習指導、相談援助演習など)もあるため、授業担当者間での情報交換などの機会を設定していきたい。
8	4.1	0	0	1	2	23	50	
9	3.9	0	0	1	6	36	29	
10	4.0	0	0	1	3	31	41	
11	4.2	0	0	0	1	15	60	[環境・設備等] 問11(教室環境)大学全体に視聴覚室を増やしていただいたこともあり、学生に概ね良好な環境を提供できたと考えている。 問12(図書館の資料の整備)今回のアンケートから資格及び免許状関係の科目での資料の充実を望んでいる様子が窺えたので、これらを中心に図書の充実をはかることと、その活用の仕方(させ方)について、科内で協議していきたい。
12	3.8	0	0	0	13	43	20	

3. 今後の方針

これまで、学科の方針として掲げてきた UPSHOWA などのシステムの活用については教員も学生もだいぶ習熟してきたと思われるため、次の2点を継続の方針として掲げる。

1. 教務部委員によるガイダンスの一層の工夫。

資格関連科目中心のガイダンスではなく、キャリアデザインポリシーや科目の体系、卒業後の進路先を意識させるよう、コース専門科目の意義について説明する機会を増やしていく。

2. 非常勤懇談科会に代わる常勤・非常勤教員との交流の機会の設定

前年度の非常勤懇談科会を2部構成とし、第1部を「資格・コースごとの教育懇談会」、第2部を「全体会」とした。平成25年度は学部単位での非常勤懇談会の実施が決定しているが、今後も資格ごとあるいはコース内における各科目担当者間の連絡を密にし、各科目の有機的なつながりを教員同士が意識化できるような機会を設定していきたい。

1. 概評

現代教養学科は、グローバルビジネス学部との独立にともない、カリキュラムの移行期にある。図書館情報学領域の教員も合流し、学科としての安定性を保つのが難しい時期にある。しかし、カリキュラムを再編する際に、各教員が担当する科目の位置づけを検討したことにより、授業改善の意識は全員で共有することができた。2013年度は、漸次開講していく新科目の運用などについて、新たに設けられた「ソーシャル・スタディーズ」「メディア・スタディーズ」「グローバル・スタディーズ」の各領域内の教員間で、議論を深めていく。その際、授業公開を最大限に活用していく予定である。

（上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.9	0	0	0	9	60	55	[学生] 現代教養学科は、必修科目に縛られる1年次生を除き、他学科よりも履修選択肢が広い特徴を持つ。それにもかかわらず、シラバスの確認について数値が低いのは、大きな問題である。 原因は、学生が、科目の中身より開講曜日時限によって履修を行う傾向が強いことであると推測される。 今後、「履修モデル」を作成するなど、実質的で系統的な履修を行っていくように指導を深めていく。
2	4.0	0	0	0	3	49	72	
3	4.3	0	0	0	0	20	104	
4	4.0	0	0	0	5	54	65	
5	4.1	0	0	0	3	39	82	[授業[内容]] シラバスと実際に行われる授業内容の一致と齟齬については、教員間で差が大きいようである。また、授業内容の理解についてはもっと数値が高くて良い印象がある。自由回答をチェックすると、3年次中心の専門科目で、「難しかった」という回答が散見される。科目間の関連性を高めて知識を蓄積できるようなカリキュラム構成が求められているようである。
6	4.0	0	0	0	9	48	67	
7	4.1	0	0	1	5	45	73	[授業[教え方等]] 数値としては概ね平均的な評価を学生から受けているようであるが、FD的な意識としてはもう一段階の工夫が必要と見受けられる。例えば「授業開始時に、その日の構成建てを伝えてほしい」という意見があった。 また「配布資料が多すぎて処理できない」という意見は、教員の熱意が空回りしていることを伺わせる。 さらに、「座って話を聞くだけでなく、作業をするのがよかった」という意見はグループワークなどの有効性を示しているし、「毎回、前回の復習のシートを示してくれるので、理解度が増した」（社会調査士科目・非常勤講師）という意見は、講義構成の工夫を学生が正当に評価していることを表している。
8	4.2	0	0	0	5	32	87	
9	4.0	0	0	0	11	48	63	
10	4.1	0	0	0	6	42	76	
11	4.1	0	0	0	6	27	91	[環境・設備等] 図書館に参考図書が揃っていないという意見は、開講中心年次が上がるほど強くなる。図書館が改革を進めていることは承知しているが、発想を変えた図書購入の仕組みを検討する時期に来ている。 大教室で「私話がきになる」という意見が多く出たのは、環境のせいか授業内容のせいか、難しい所である。
12	3.9	0	0	0	12	63	49	

3. 今後の方針

現代教養学科では、新カリキュラムの開始によって、学科で抱えるディシプリンが大幅に入れ替わり、経済・マネジメント系教員が抜け、図書館情報領域の教員が合流した。この変動は、一学科としては極めて大きく、学科の安定性を維持するのが大変難しい。

敢えて良い点を挙げれば、カリキュラムを再編する際に、各教員が担当する科目の位置づけを検討したことにより、これまで並列的に並んでいた現代教養学科のカリキュラムを、構造的なカリキュラムに近づけることができた。その結果、各領域間科目間の関連性を高める意識を共有することができた。

2013 年度は、漸次開講していく新科目の運用などについて、新たに設けられた「ソーシャル・スタディーズ」「メディア・スタディーズ」「グローバル・スタディーズ」の各領域内の教員間で、議論を深めていく。その際、領域内の教員が効果的に話し合いを行えるように、授業公開を有効に活用していく予定である。

1. 概評

すべての項目で、4点以上と授業全般に評価が高い。
 ここ数年、高い水準を維持している。
 これは、学生の授業への取り組みに対する意識の高さが維持されているからだと思われる。
 常勤、非常勤ともに高水準を維持しているのが特徴として挙げられると思われる。
 個々の項目、教員個々人の項目について、詳細に検討を加えていく必要があるように思われる。

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	4.1	0	0	0	2	28	58	[学生] 最初に授業を受ける前のシラバスの確認を十分に行っている様子が伺える。 特に、選択科目において、その傾向が強い。それに対して、全般的に高水準の中で、授業が始まってからの「シラバス確認」の項目が低くなっている。15回の授業の前半、中間等に再度シラバスを確認し、今、どこどの段階かを確認していく必要があるのではないかとと思われる。
2	4.3	0	0	0	2	11	75	
3	4.5	0	0	0	0	0	88	
4	4.2	0	0	0	1	20	67	
5	4.2	0	2	0	2	13	71	[授業[内容]] この項目に関しても高い水準を維持している。 一部の科目に、やや低いものもある。学生の求めている内容と教師が進めたいと思っている内容との間に、若干のずれがあるのではないかとと思われる。 この点について改善につとめたい。
6	4.2	0	2	0	4	13	69	
7	4.2	2	0	0	4	16	66	[授業[教え方等]] この項目に関しても高水準を保っている。 個々の教師によっては、ばらつきがみられるが、これは、授業内容との関連が考えられる。 教師の個々の意識の改善ができるようにつとめたい。 また、専門科目比べ、一般教養科目、学部共通科目に関して、内容が理解できないなどの傾向が見られる。
8	4.2	2	0	0	3	12	71	
9	4.1	2	0	0	4	21	61	
10	4.2	2	0	0	3	17	66	
11	4.2	0	2	1	1	21	63	[環境・設備等] 教室環境に関しては、受講者の人数と教室のキャパシティの問題があつて、完全に改善したとはいえない。 しかし、徐々に改善につとめ、年々、環境に対する不満は解消されつつあるように思われる。
12	4.0	0	0	2	4	28	54	

3. 今後の方針

授業評価については、おおむね、高い評価を得ている。

これは、授業を受ける学生への意欲の喚起と、教師個々の意識の高さ、改善への努力の結果だともわれる。

学科の方針として、今後も、学生の要望に応じた多様な学習機会を与えていくようにつとめたい。

学科の特性上、高い職業意識、志向性が強い。しかし、学生によっては、授業を受ける課程で、進路に迷う場合もある。

できるだけ、学生の要望にこたえ、かつ、学科の特性を踏まえたカリキュラムの改善につとめたい。

施設面に関しては、なお、検討の余地がある。とくに、児童教育コース、幼児教育コースの履修者の増減によって、受講者の人数によっては、教室が狭かったり、教室変更を余儀なくされることがある。

その点の改善が望まれる。

1. 概評

全体と学科平均の比較では、問い 1, 2, 4, 9 が同点、問い 3, 12 が-0.2、残りの問いが-0.1 という結果であった。また、昨年度後期と比較すると、問い 3, 4, 6 は変わらず残りの問いではすべて+0.1 という結果であった。差が大きかった問い 3 (出席状況) は、H22 からの見ると 0.1 ポイント上がったりと下がったりしている項目である。他学科のスコアがさらに良いということであるので、さらに積極的な出席を促したい。差が大きかったもう一つの問いは本学科で一番低いスコアでもある問い 12 である。参考図書の整備について教員から図書を推薦するなど図書館に協力することと合わせ、引き続き各授業での図書館利用アドバイス等を行っていききたい。本学科はデザイン系の科目から理数系の科目まで幅広く学び、さらに実習系の科目が必須となっており、これらの科目間の評価差は大きい。評価の高い科目の授業運営上の工夫なども参考にしていきたい。

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。)

no	全体平均	学科平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5≤ <3	3≤ <3.5	3.5≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.9	3.9	0	0	0	9	73	51	[学生] H22 から全体としては徐々にスコアは上昇している。H23 に一度スコアが下がった問い 2 (授業への積極的な取り組み) は改善した。一方 問い 3 (出席状況) は -0.1 という残念な結果であった。 学生の授業態度に関する設問の中で、3 点台であるのは問い 1 (シラバスの確認) であるので、日ごろから授業内でシラバスについても触れるなどしていきたい。 問い 4 (授業外での学習) は、宿題も含まれることになって以来 4 点台となっている。さらに自発的な学習を促したい。
2	4.1	4.1	0	0	0	3	50	80	
3	4.3	4.1	0	0	0	1	37	95	
4	4.0	4.0	0	0	0	7	51	75	
5	4.1	4.0	0	0	0	4	64	65	[授業[内容]] 授業内容に関する 2 つの設問に関しては、問い 5, 6 ともに全体平均よりも 0.1 ポイント低いスコアであった。しかしながら、H22 から見るとスコアは上昇しており、特に問い 6 は H23 前期で一度下がったところを回復している。
6	4.0	3.9	0	2	2	9	55	65	
7	4.1	4.0	0	1	1	11	50	70	[授業[教え方等]] 教え方に関する 4 つの設問に関しても、H22 から少しずつスコアが上昇している。 スコアが 4 以上の科目が少しずつ増えている一方、3 に満たなかった科目が数科目あった。この中には 自然科学系、資格系理系科目が含まれており、授業内容の理解度が低いことが、他の項目にも影響していると考えられる。 視聴覚機器の有効利用や UPSHOWA の利用など、授業運営に工夫を加えて行きたい。 なお、問い 9 で“0”と付いていた科目があった。
8	4.2	4.1	0	1	1	7	40	84	
9	4.0	4.0	1	0	1	11	54	65	
10	4.1	4.0	0	1	2	9	55	66	
11	4.2	4.1	0	0	0	5	49	79	[環境・設備等] 学習環境に関する設問のうち問い 11 では、H23 に 0.1 ポイント落ちていたものを元のポイントに戻した。また、最もスコアの低い問い 12 (参考図書の整備) については、少しずつスコアを上げてきているので、引き続き各授業での図書館利用アドバイス等を行っていききたい。
12	3.9	3.7	0	0	2	25	76	30	

3. 今後の方針

学科の平均を H22 から見て行くと、少しずつ評価が上がっているか、あるいは現状維持であった。H23 年度に一度わずかに評価が下がった問い 6, 8, 9, 10 も、もとのスコアに戻ってきている。そのなかで、問い 3 (学生の出席) の評価が、0.1 ポイントではあるが上下しているので、積極的な出席を促したい。

シラバスに関する問い 1 および 5 については、今後さらにシラバスの充実と授業内での有効利用を図っていききたい。

図書館の利用、関連図書の充実については、今後とも参考図書の整備をつづけ、引き続き各授業での図書館利用アドバイス等を行っていききたい。各教員による図書の推薦も積極的に行いたい。

学生の理解度が上がりにくい科目群の一部ではあるが、さらに少人数化をしたり、演習に対応できる助教をつけたり といったことを実施予定である。

1. 概評

本学科の学生は前期に続いて1～4年生が定員一杯の状態で開催を行った。前期と併せ今後の基準になると考えられる。4年生対象の数科目が、今期初めて開講されたが、全体としてみると科目のほとんどが資格必須または領域必須になっており、学生による選択の余地はそれほど大きいとはいえない。これに関しては、前回までと同様に授業評価にも反映されたものと考えられる。

《学生》シラバスの確認は前期より0.2ポイント低下して前年度と同様になったので、十分とはいえない。これは多くの授業が資格、領域必須である為、選択の余地がそれほど多くないことに起因すると考えられる。その他の項目についても著しい変化はないように見受けられる。

《授業》総じて平均的な評価だったが、今年度から一部の教科で進度別クラス分け授業を開始した事により改善傾向はみられるが、全体に対する比率は低いので、学科平均の値には大きく影響しなかったと考えられた。

《環境設備》教室など学習環境の評価は平均的であるが、参考書についての評価は引き続き高くなかった。一層の充実が望まれる。

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.7	0	0	0	9	35	17	[学生] シラバスの確認についての評価が、前年度と同じレベルに下がった。これは、後期ということもあり、ほとんどの授業が資格あるいは領域必須でありクラス分けした時間割によって履修を行っている為、確認の必要性を認識しにくいと考えられる。授業の出席についての評価は依然として高く、栄養士養成施設に学ぶ学生としての自覚の現れと同時に、各教員の指導の賜物と考えられる。実験実習科目での評価が高く、講義科目での評価が低い傾向にあるのは例年通りであるが、継続的に授業内でのレポート作成時における、関連情報検索などに対する考え方や方法についての指導もさらに進める事が大切だと考えられる。
2	4.0	0	0	0	2	24	35	
3	4.4	0	0	0	0	2	59	
4	4.0	0	0	0	1	30	30	
5	3.9	0	0	0	5	31	25	[授業[内容]] 全体的に平均的な評価であった。科目選択の余地が少ない状況であるが、本学科の目的は明確化されているため授業への取り組みの意識や姿勢が保たれていると考えられる。今後はさらに授業への集中、授業前後の取り組みにも力を入れるよう、折にふれた指導を継続的にしていきたい。
6	3.9	0	1	2	5	30	23	
7	3.9	0	1	2	4	23	31	[授業[教え方等]] 全体的に平均的な評価であった。授業内容の評価に関し、基礎科目において低評価になる傾向が従来から有るが、今年度から進度別クラス分けの授業を実施していることから、来年度以降も継続的に観察し、適宜改善を重ねていきたい。
8	4.0	0	1	1	7	19	33	
9	3.9	1	0	1	6	22	29	
10	4.0	0	1	1	3	24	32	
11	4.1	0	0	0	1	21	39	[環境・設備等] 教室設備についての評価は平均的であった。一部の授業で低い評価が認められるが、受講者数の多い科目では十分でない環境で実施せざるを得ない状況があったと推察される。設備の更なる充実が必要である。参考資料については依然十分でない状態であるので更なる充実が望まれる。
12	3.8	0	0	1	4	41	15	

3. 今後の方針

本学科においては、資格関連科目が大部分を占め、クラス毎に履修が同じ科目である事が多い。また科目名から内容がほぼイメージできる等の理由により、学生はシラバスを十分に確認することなく、授業に参加する傾向が強いと考えられる。授業に対する取り組みや出席状況は、概ね良好であり評価は高い。これに対し、授業外での学習においては、レポートや課題が課されない科目で低い傾向が読み取れる。今後、資格必須科目、選択科目ともに、授業への能動的かつ積極的な参加と学習意欲の更なる向上を図る事を目的とし、キャリアデザインポリシーを含めた情報の提供を促進し、評価が向上するよう努力する。また、基礎科目群、資格関連の基礎科目の授業評価が依然やや低い傾向にあることから、進度別クラスにおける指導体制の強化を目指したい。今後も、学生の学習意欲の向上につながる指導の内容と方法、環境整備等を学科内の非常勤講師の方々も含めた教員に加え、カリキュラムグループ等を活用して取り組む。健康デザイン学科の完成年度を終了し、実質初めての卒業生を送り出した事もあり、進路動向も考慮したうえでの今後の対応をしたいと考えている。

1. すべての項目で平均点が、高くなってきている。従来からシラバスの事前確認がなされてなかったり、学外での学習の平均が低いことがあげられていたが、上って来て、良い傾向である。1年の基礎科目である化学の能力別クラス分け授業を行うことにより、授業への意識も高まり、十分な学習効果が現われてきている。より一層、学生達にとって、有効な授業を展開できるよう教員の支援が必要と思われる。学習環境は、良好と言えるが、参考図書等については、授業外での自主的な学習を促すためにも、より一層の充実が望まれる。

（上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.9	0	0	0	6	15	23	[学生] 昨年度の後期の評価と比較すると、すべての項目の平均点が高くなっている。資格取得のための必修科目が多いので、出席率が高いことは例年、予測されているが、シラバスの事前確認や授業外での学習の点数が上ってきていることは、評価すべきところである。教員の支援のみならず、学生の授業に対する意識がさらに高くなってきたと感じられる。さらに授業内外での十分な学習ができるような教員からの支援を要請していきたい。
2	4.3	0	0	0	0	4	40	
3	4.6	0	0	0	0	1	43	
4	4.2	0	0	0	1	7	36	
5	4.1	0	0	0	0	10	34	[授業[内容]] 若干、平均点は上って来ている。項目1の平均点は上って来ているので、学生はシラバスに沿った内容かどうかをきちんと把握している結果と思う。今年度から基礎科目の化学が能力別に行われているので、学生の能力にあった授業運営をあったことを1年生の評価からわかった。
6	4.1	0	0	0	1	9	34	
7	4.1	0	0	0	1	11	32	[授業[教え方等]] 若干、平均点は上って来ている。教え方の評価は、受講者数と教室の広さ、設備などの状況によっても変わってくる。授業内容により興味を持たせ、理解を深めさせるような教え方を教員各自が検討していくように要請していきたい。
8	4.1	0	0	0	2	8	34	
9	4.1	0	0	0	3	7	34	
10	4.1	0	0	0	1	9	34	
11	4.2	0	0	0	0	7	37	[環境・設備等] 平均点は、上っている。一般教室の視聴覚設備等の整備がここ数年、行われているので、その効果も現われて来ているのではないかと推測される。実験実習室の改善等を含め、関係部署に働きかけをしていきたい。図書館には専門書が整っているが、専門領域によっては十分ではない場合もある。より新しい情報としての書籍や雑誌が入るよう、教員からも希望出していただくように要請していきたい。
12	3.9	0	0	0	2	16	26	

3. 今後の方針

栄養士養成施設であるので、決められているカリキュラムを大幅に逸脱することはできないので、学生自身もシラバスを確認することなく、授業に臨んでいることは常に予想されていたが、今年度後期は、すべての平均点が前回よりも上回っている。近年、入学生の基礎力の低下が問題となり、また、能力の個人差があるので、化学の授業を能力別に行った。そのことにより、各学生自身の能力に合った授業を受けることができ、一定の効果が現われている。今後、他の科目についても検討し、授業内外で自主的に学習を行う意欲を持ち、将来、管理栄養士として知識と技術の能力を身につける事ができるようなことを学科で検討していきたい。

1. 概評

全体的に見ると、どの項目も 3 以上の評価を得ており、また、4 以上の評価が半数以上を占めている。参考図書に関しても、以前よりは改善された。

（上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≦ <2	2≦ <2.5	2.5 ≦ <3	3≦ <3.5	3.5 ≦ <4	4≦	評価と対策
1	4.0	0	0	0	3	37	49	[学生] シラバス確認、授業での積極性、出席状況、学外での学習について、全体として高い評価をつけている。学外での学習について、科会で討論をし、アイデアを出し合い、課題を出させたり、小テストを実施するなど、授業内でそれぞれ実践したことが反映されたように思われる。また、出席についても、一部の極めて欠席が多い学生を除いては、後期に入って、就職活動や編入に向けてモチベーションが高まり、前期よりもきちんと出席し、授業に臨んでいたと考えられる。
2	4.1	0	0	0	2	28	59	
3	4.2	0	0	0	1	17	71	
4	4.0	0	0	0	3	35	51	
5	4.1	0	0	0	2	29	58	[授業[内容]] 多くの授業がシラバス通りに行われた。シラバスに変更がある場合は、第一回目で必ず告知するようにお願いをしたことも効果があったかもしれない。授業内容についても、よく理解しているが、学外での課題をこなすようになったことで、予習・復習がきちんとなされたことも、理解につながったのではないだろうか。
6	4.1	0	0	0	4	27	58	
7	4.2	0	0	0	6	18	65	[授業[教え方等]] 今年度から新しい科目があったにもかかわらず、理解しにくい科目はほとんどないという結果となった。3 号館に視聴覚機材が整ったことと、少人数による丁寧な指導が反映していると考えられる。
8	4.2	0	0	0	1	16	72	
9	4.1	0	0	0	3	28	58	
10	4.1	0	0	0	4	22	63	
11	4.2	0	0	1	0	18	70	[環境・設備等] 学習環境が適切だったか、という設問に、低い数値がついているが、この科目は「女性と社会」と同時開設していただいたキャリア科目である。人数が 100 名を超えるため、このような回答になったと考えられる。それ以外の文化の科目については、教員に教室変更などを積極的に行ってもらったこともあり、問題なかったようである。
12	3.9	0	0	0	6	48	35	

3. 今後の方針

学生からの評価は、特に問題がなく、全体として評価が高かった。今後も、自由記述欄を活用することで、授業の改善に努めていきたいと考える。

1. 概評

前回の平成24年度前期と比べると、評価項目12のうち、0.1下回った項目が4つ、0.1上回った項目が3つ、変わらない項目が5つある。従ってほぼ前回と比較した場合、ほぼ変化無しと言える。

つぎに全学科平均と比較すると、9項目が0.1、3項目が0.2ポイント下回っており、全項目の平均は、全学が4.04であるのに対し3.96で、ほぼ遜色はないと考えられる。[環境・設備等]が、どちらも全学科平均よりも0.2低い。

全般的には評価はおおむね良好といえる。一般教養科目の多様性ゆえ一朝一夕にはいかないが、分析と反省をとおしてじっくり改善を図っていかねばならない。まずは、学生の学習意欲を刺激できるように、履修の見取り図とも言える「知の羅針盤」を学生の間に浸透させていきたい。

（上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5≤ <3	3≤ <3.5	3.5≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.9	0	0	0	5	62	50	[学生] このグループの平均は、前回と同じ3.98。依然、出席を問う項目は12項目中の最高値である。学生は良好な出席を維持しているので、次には学習の質の充実を目指して欲しい。 本年度から一般教養科目は旧来の人文科学、社会科学、自然科学という科目分類から、より分かりやすい新分類に切り替え、その分類の視覚化として、また履修の見取り図として「知の羅針盤」というイメージ図を作成した。学習の質の充実のためにも、この「知の羅針盤」を学生間に浸透させ、学習意欲を刺激していきたい。
2	4.0	0	0	0	4	60	53	
3	4.2	0	0	0	0	10	107	
4	3.8	0	0	2	20	52	43	
5	4.0	0	0	0	5	40	72	[授業[内容]] このグループの2項目も前回と同じ平均4という数値を維持しており、概ね良好な評価と言える。
6	4.0	0	0	1	9	43	64	
7	4.0	0	0	1	7	40	69	[授業[教え方等]] このグループも、前回と同じ平均値4.0。概ね良好と言ってよい。 授業公開やFDサロンなどの機会をできるだけ活用して、更なる講義内容、講義方法の充実を図ってきたい。
8	4.1	0	0	0	7	32	78	
9	3.9	0	0	1	17	40	59	
10	4.0	0	0	0	9	40	68	
11	4.0	0	0	1	9	40	67	[環境・設備等] 学習環境を問う項目11は、前回より0.1ではあるが高い評価。それでも全学平均を-0.2下回っている。キャリア科目をはじめとして一般教養科目は、総じて受講生数が多いことが、理由として考えられる。本学の教室の広さなどを考えると、この数値はやむを得ない。 参考図書の充実も引き続き課題であるが、学習図書、推薦図書の積極的な申し込みを、各教員にお願いしていきたい。
12	3.7	0	0	1	13	81	22	

3. 今後の方針

今後の方針に関しては、前回と変わらない。

カリキュラムポリシーに従って、目下カリキュラム編成の見直しを行っており、拙速にならないように、しかし着実に、基幹科目の充実を図っていきたい。

「評価と対策」にも記したように、一般教養科目の新分類であるとともに、本学一般教養科目の言わば履修及び知の見取り図である「知の羅針盤」を学生の中に浸透させ、履修計画の際に大いに利用してもらいたいと考えている。

1. 概評

講義数 190 のうち、3 クラスのみ受講者数が 30 をこえた。しかし 20 代後半のクラスがあいかわらず多く、理想的な語学の講義にはいまだしの感がある。入学人数の増減に左右されることとはいえ、今後とも少人数クラスの実現にむけて環境を整備する必要がある。昨年度後期・今年度前期からほとんど変化はないものの、学科平均が全体平均をわずかにしたまわる項目が多く、まずはここから改善していく。

（上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.7	0	1	11	43	87	48	[学生] No.3 は例年、後期の数値が前期にくらべてひくい(今年度－0.2)。新入学生が大学生生活になれ、気がゆるみ欠席がふえるからだろうと推測する。他は変化がない。ただし、全項目で学科平均が全体平均をしたまわる点、反省材料である。学生の積極性をひきださなければならない。懇談会などで教員に自覚をうながすようつとめる。
2	4.0	0	0	0	7	64	119	
3	4.2	0	0	0	2	27	161	
4	4.0	0	0	1	10	76	103	
5	4.0	0	0	0	11	81	98	[授業[内容]] 昨年度後期、今年度前期とほとんど変化なし。学科平均・全体平均を極端にしたまわる(3.0 以下) 教員はひとりもいなかった。No.5 は 4.0 以上がほとんどで、No.6 の数値に反映していると判断する。
6	3.9	0	0	1	22	77	90	
7	4.0	0	0	4	19	50	117	[授業[教え方等]] No.9 が前期比+0.1。他は変化なし。視聴覚設備が全教室にそなわった成果を反映した数値であろう。ただし、ここ数年、評価にほとんど変化がなく、4.0 前後の数値がカベとなっている感じである。FD サロン等を利用するなどして、教授法の改善にとりくむよう、教員によびかけていく。
8	4.1	0	0	0	16	36	138	
9	4.0	0	0	2	17	68	103	
10	4.0	0	0	0	16	60	114	
11	4.2	0	0	0	2	40	148	[環境・設備等] 数値に変化なし。概評でのべたとおり、人数はかなり改善されている。図書館の利用をうながすため、語学の視聴覚教材をふやすよう、購入希望をだしていく。
12	3.7	0	0	1	36	113	36	

3. 今後の方針

グローバル人材育成推進事業に採択され、外国語教育を改善する好機である。同事業はグローバル人材にもとめられる能力として語学力とコミュニケーション能力、異文化を理解する力、日本人としてのアイデンティティの涵養をあげている。日本語もふくめると 9 言語を教授する本学は、これを機に語学教育に一層力をいれるべきであり、そのための環境をととのえるべきである。

すでに人間文化学部日本語日本文学科と歴史文化学科の英語は、新入学生をまとめて能力別にクラス編成し、コンピュータや視聴覚機器を利用するなど、従来にないとりくみをはじめ。日文と歴文でえられた知見を今後、他学科の外国語教育にも応用していく方針である。

1. 概評

本アンケートは、学生の自己評価・授業内容・指導方法・環境設備等の四つのカテゴリーで構成されているが、全12項目の総合平均値の推移は、この4年間で以下の通りである。2009年度前期:4.1, 後期:4.2 弱, 2010年度前期:4.1, 後期:4.1 弱, 2011年度前期:4.3 弱, 後期:4.25 そして2012年度(今年度)前期:4.37, 後期(今回):4.32。常に右肩上がりではないし、今年度は後期がやや下がったものの、86～87%の評価は「概ね満足」できるものと受け止めている。教員の個人スコアにおいて、3.0に達しない評価は例外的で、全体としての力量が発揮されているものと考えて良い。個別の向上策は、更に検討を要する。(上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。)

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。)

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	4.0	0	0	0	3	7	14	[学生] 「シラバスの確認」が、辛うじて4.0であったが、他の項目に比べて低いことが、今回の特徴である。後期の履修者がやや低い傾向は、これまでのも見られたが、「シラバス」の存在理由や活用方法について、教職科目の特性とも合わせながら指導していくことが必要である。しかし、項目5の「授業がシラバスに沿っていたか」に対しては4.3であり、学生の認識についての吟味も求められている。それでも、この4年間で見れば、僅かながらではあっても改善は認められる。 「出席状況」は、恪勤賞など本学の大学文化の反映もあり、常に高い数値を示している。今回も、全回答が4以上であった。出席は当然のことではあり、公欠制度なども考慮しなければならないが、学生が学びの場に参加することは望ましいことであり、良き伝統として維持していきたい。
2	4.3	0	0	0	0	2	22	
3	4.6	0	0	0	0	0	24	
4	4.3	0	0	0	0	2	22	
5	4.3	0	0	0	0	3	21	[授業[内容]] この二つの項目は、「カリキュラムの計画性」と「授業の理解」への評価であり、極めて重要なポイントである。一応の満足は出来る結果だが、全回答が4以上となることを目指したい。しかし、授業は「生もの」であるので、組まれた計画に拘束されてはならず、フレキシビリティをいかに学生と享有するかも研究の余地がある。理解度の向上は、引き続き努力したい。
6	4.3	0	0	0	0	3	21	
7	4.4	0	0	0	1	0	23	[授業[教え方等]] 「説明の明快さ」「話すこと」「メディアの活用」「資料・教材」は、いずれも教師の教育方法と技術に関する評価である。大過はないが、更に向上への努力は必要である。 ICTの時代であり、スマホやSNSなども含めて、「効果的に活用する」ことは不可欠である。教職科目においては、当該授業の充実した展開のためだけに留まらず、メディア活用の実例を例示する意味もあるので、単に使用することを越えた力が求められている。 その上で、やはり授業の基本は「言葉の遣り取り」にある。「良く伝わる声で・明瞭に・分かりやすく話す」ことは、教師の必要条件である。読む・書くこと以上に、話す(あるいは語る)こと・聞くことが重要であるので、アナログ力の向上にも意を用いなければならない。活動型授業の開発にも、更に力を注ぐ予定である。
8	4.4	0	0	1	0	1	22	
9	4.3	0	0	0	1	2	20	
10	4.4	0	0	0	1	2	21	
11	4.4	0	0	0	0	2	22	[環境・設備等] 大学図書館は大学の質を測るバロメーターであるので、前期同様に4を上回る結果であったことには安堵できる。学生の情報ニーズと大学として求めることに乖離が生じないようにしつつ、「学問研究の拠点」としての図書館の充実を図りたい。受講者の人数などは適正規模あるいは少人数で問題はない。空調についての改善要望には、順次対応している。
12	4.1	0	0	0	0	5	19	

3. 今後の方針

I の「概評」に述べたように、この4年間のスパンで捉えれば向上が認められる。今後の数値目標としては、このアンケートの 12 項目単純平均値が 4.5 以上となることを掲げ、一層の努力を注ぎたい。90%以上が「満足」という結果となるべく努めたい。

今年度も、卒業と同時に現場の教師として活躍する学生が 10 名を超える見込み(学部の新卒のみ)である。女性のキャリアとしても、現下の教育現場の実態からも、本学出身の教師が、より多く輩出できるように努めたい。開設科目は教育職員免許法に定められたものが殆どではあるが、「教職課程特講」という本学独自科目をより充実させることも含めて、授業の充実に向けさらに努力を重ねたい。